

公益信託高知市まちづくりファンドニュース

まちファン

14号

2010年3月31日



『まちづくり』ってなんだろう？

高知で気持ちよく暮らしたい。
楽しい時間を共有したい。
みんなで支え合いたい…。

日常のいろいろな気づきが
『まちづくり』につながる。
一人ひとりがまちを作っている。

迷路のような小さい町の路地、
人でにぎわう「曜日市」、
ゆったりとした時間が流れる高知城近辺。
鏡川から見るみごとな夕焼け、
青々とした緑…。
それは高知のありふれた風景。
そのすべてを作っているのは、私たちだ。
たくさんの人によって、
受け継がれ守られてきている。

このまちを大事に思う。
高知に住む人を大切に思う…。
こんな時代だからこそ、
想像力を持って、人と出会い話し合い、
その気づきを実現していきたい。

まちは多くの人の
『まちづくり』で支えられている。



目次

公益信託 高知市まちづくりファンド 2009年度ソフトコース中間発表会・ 2008年度ハードコース最終発表会	
中間・最終発表会の流れ	2
中間発表会プレゼンテーション	
「まちづくりはじめの一歩」コース	2
「まちづくり一歩前へ」コース	2
最終発表会プレゼンテーション	
「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース	4
公益信託高知市まちづくりファンドの応募方法	4
2009年度ソフトコース中間発表会・ 2008年度ハードコース最終発表会を終えて	5
運営委員の紹介	5
公益信託「高知市まちづくりファンド」とは/今後の予定	6

中間発表会
最終発表会 の流れ

2010年1月30日(土)、公益信託「高知市まちづくりファンド 中間発表会」が開催されました。参加者(応募団体・一般・関係者)は約50名。2009年7月26日(日)開催の公開審査会において助成決定を受けた6団体が、事業の進捗状況を発表しました。意見交流会では和やかな雰囲気の中、さまざまな意見が飛び交いました。

1 プレゼンテーション



助成先団体が事業の報告を模造紙1枚にまとめ、発表(ソフトコース3分・ハードコース5分)。参加者に、各事業についての良い点・質問・提案・その他の意見を、付せん書いてもらう。

2 付せん貼りタイム



記入済みの付せんを、各団体が発表で用いた模造紙のところに貼ってもらう。

3 意見交流



運営委員が貼られた付せんの内容を団体ごとに紹介し、参加者との意見交流を実施。

2009年度 公益信託高知市まちづくりファンド助成事業 ソフトコース 中間発表会

「まちづくりはじめの一步」コース

●プレゼンテーション●

GROUP 1 高知ラブ・らぶ・ラブズツキュン☆

高知の伝統をもう一度見直し新商品開発を目指す



高知市の資源集めを行った。朝倉周辺を歩いてみると、良心市がたくさんあることに気付き、良心市のマップを作ってみた。もう少し具体的にしていき、地域の人が出している商品などについて、情報をもっと載せていきたい。マップを高知大などに張り出し、小さな経済効果を生み出していきたい。新商品開発が目標なので、高知の特産を活かした新商品を作っていきたいと思っている。これ以外にも高知の魅力となるマップも作っていきたい。

VOICE

- 良心市MAPほしい。
- まち歩きから始めて、『知るを知る』ことは良い。
- 良心市マップをもっと広域にPR、広報しては?
- 季節によって出ている品物や値段を詳しく知りたい。

「まちづくり一歩前へ」コース

●プレゼンテーション●

GROUP 1 高知県フェニックス親の会

障がい児(者)の訓練会の事を地域に広めよう



療育キャンプを8月16日~21日に実施。指導に従い1日3回の集中訓練を行うことで、大変成果が出る。宿泊することにより仲間の親睦の場となり、普段、手伝ってもらうことの多い子どもたちが、手助けしようとする行動が見られる。新型インフルエンザの流行のため、十分な育成活動ができなかったのが、とても残念。今後の予定として、体の不自由な人たちにも楽しく体を動かすことのできるフラメンコや水泳教室などを計画。

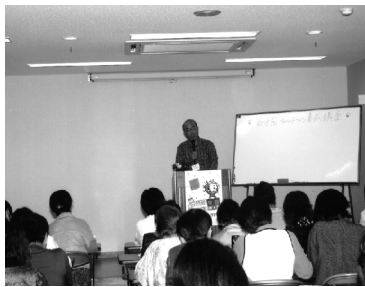
VOICE

- 仲間で取り組むと、頑張れるので効果的ですね。
- 理解者、ボランティアを増やすことに力を入れている事は、良いことだと思う。
- ボランティアの呼びかけと結びつきが出来て良かった。

GROUP
2

チャイルドラインこうち開設準備会

チャイルドラインこうち「電話の受け手」 ボランティア養成研修会



10月から12回の研修会を実施。1回目から5回目は、公開講座で呼び掛けた。1回目35名、2回目37名、3回目63名と、たくさんの方が来てくれた。現在35名が、電話を受ける研修をしている。同時進行で、支え手の研修も行っている。今後は、2月11日、13日、19日にスポット開設。4月には、子どもたちにカードを配布し、5月に開設する目標を立てている。現在、ロータリークラブの例会や、各教育委員会を通して各地域にもPRをして会員を募っている。

VOICE

- 受講者が多いのは、チャイルドラインが必要と感じているからだと思う。
- 第一歩から予定どおり進められていて、素晴らしい。
- 子どもを守るセーフティネットをさらに広げてもらいたい。

GROUP
3

特定非営利活動法人 高知市こども劇場

感じるつながるあそびの時間 part4 (高知城で忍者修行の巻、および親子版ワークショップ)



10月18日開催の忍者修行では、大人を巻き込むため、スタッフの数を増やし、子どもたちの参加人数も増やした。関わるスタッフは、場所の下見や準備、実際に修行をするなど、子どもたちにどう関わるかということ考えた。11月3日開催の遊びの時間は、プレ企画として、年中・年長児の親子を対象。忍者修行では、いろんな施設の人、たくさんの方が参加してくれた。アフタフ・バーバンを招き、子どもたちのワークが盛り多くなった。

VOICE

- 地域の施設を使い、親子で遊ぶ企画は、大事だと思う。
- 遊びを通して共に成長することは、良いこと。
- 大人の意識が変わることが大切だと思う。

GROUP
4

わくわくワークるんだ商店街実行委員会

わくわくワークるんだ商店街



11月8日に、わくわくワークるんだ商店街を開催。参加者は約150人。ジュニアバイザーやアンケートの中から提案があった職業を増やした。帯屋町商店街の企業に出向いたり、商店街以外のホテルにも協力してもらったりして、電気屋、建設業、ホテルマン、ブライダル、パン屋など28業種になった。また、るんだ通貨の使用店舗が、9店舗から12店舗に増えた。情報の周知として、説明をしに各店舗を徹底的に回った。

VOICE

- 実際のるんだ商店街は子どもたち、大人もいきいきして、とても楽しそうだった。
- 子どもたち、商店街のためにも頑張っていてほしい。
- 事業の拡大ができたことは、大変良い。

GROUP
5

特定非営利活動法人 高知県生涯学習支援センター「エンゼルハンド」

「できる」喜びが未来につながる～聴覚障害児の社会参加を目指して～



講師に早瀬憲太郎氏を迎え、11月21日に講演会を開催。参加者は約180人。講演会をきっかけに、活動を知ってもらうことができた。また、12月12日にクリスマス交流会を行い、リース作りやビンゴなど地域の人たちと楽しく過ごした。今後の課題は、講演会に参加してくれた人たちや地域の人に対して、交流会や学習会の呼び掛け方法、活動を広げていくためのスタッフ養成。協力してくれた団体と連絡を取りながら、今後の活動を進めていきたい。

VOICE

- 少ない人数で運営しているのは、すごい。
- 今後の計画が、たくさんあるが、どれから、どのように進めていくか、期待している。
- 地道な活動なのでコツコツと頑張っていてほしい。

「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース

●プレゼンテーション●

GROUP
1

本宮川の水辺と螢の会

夢をカタチに！ホテルが飛び、魚も生息できる本宮川をめざして



ポンプを設置してから、最近の水が干上がることもなく、魚が死んでいる姿は、ほとんど見られない状態である。川の底に、魚が住めるくらいのところがあり、たくさんの魚が生息している。その中で、今年は鮎を見つけた。それくらい綺麗な川になった。ホテルの幼虫も放流し、毎年たくさん飛んでいる。また、菖蒲がきれいに咲いていて、カメラマンがたくさん来ている。川のすぐそばが、良い憩いの場所になっている。放水した後は、ほとんど川に下りることがなかった小学生が、川に下りて魚をすくっている光景も、たくさん見るようになった。最近では、釣りをしている親子がいるが、まだ釣りが出来るまでではない。また、ポンプの横に噴水を造っているの、大変涼しく感じる。今後は、障害者たちが、道の邪魔にならないと楽しく過ごし、地域の人がもっといろいろなことが出来るように話し合いながら、進めていきたいと思う。

VOICE

- 未来の子どもたちへ自然の大切さを学べる環境を残すことができる取り組みが良い。
- 魚の大量死がなくなって良かった。
- 川のそばで涼む子どもたちの姿が微笑ましい。
- 岸辺の再生(菖蒲植栽)に着目したことは評価できる。



公益信託 高知市まちづくりファンドの
応募方法が変わります!

公益信託 高知市まちづくりファンドの応募方法が変わりました。応募期間中に事前説明会を行います。

■事前説明会とは

ファンドを受けるにあたっての、必要事項や要点等について、説明させていただきます。また、相談にも応じます。期間中2回開催する予定なので、初めて応募しようと思っている団体は、ぜひ参加してください。(要申込)

少額でもOK! まちづくりファンドに寄付をお願いします。

まちづくりファンドは、市民のまちづくり活動を応援するファンド。まちづくり活動に直接、関わることはできなくても、「寄付」という形で支援することができます。これまで企業や市民、有志の方々、そして助成先団体からもファンドに寄付をしていただきました。皆さまからのあたたかいご支援をお待ちしています。

お問い合わせ先 株式会社四国銀行 お客さまサポート部 信託担当
TEL: 088-871-2226 【受付時間】月～金 9:00～17:00

助成スケジュール

応募受付期間

2010年4月20日(火)～2010年6月7日(月)

※受付後に、応募内容の詳細についてヒアリング等をさせていただきます。

事前説明会

5月27日(木)・5月30日(日)

公開審査会

2010年7月25日(日)

中間発表会

2011年1月29日(土)

最終発表会

2011年7月30日(土)

二〇〇九年度ソフトコース中間発表会・二〇〇八年度ハードコース最終発表会を終えて

運営委員長
卯月 盛夫
(早稲田大学教授)

今日の発表会で共通するキーワードは「子ども」でした。特に興味深く思ったのは、大人と子どもの新しい関係をつくり出す、子どもの呼称と、大人の呼称が提案されたことです。

①川ガキ「本宮川の水辺と蜚の会」

裸に近いような格好で、思う存分、遊んでいる子どもたちのイメージを彷彿とさせ、共感を覚えました。

②ジュニアバイザー「わくわくワークるんだ商店街実行委員会」

仲間を楽しく遊ばせるにはどうしたらいいか、子どもたち自身を考えさせることで、子どもの成長を促す機会を提供しています。

③支え手「チャイルドラインこうち開設準備会」

「受け手」では、少しストレスがたまってしまうかもしれない。その人を「支える」というのは、すばらしい考え方で、美しい日本語です。

④響感者「高知市子ども劇場」

「感情、感覚が響き合う」ということで、子どもに寄り添う大人の役割を表現しています。

ニューパブリック(新しい公共)の分野を拡大させるために、このような新しい言葉をつくり出して、新たな役割を伝える。これは、とても重要なことだと思います。さて、時代は「コンクリートから人へ」と変わりつつあります。千葉大学の広井良典先生は、著書の中で「都市計画と福祉は一体にならないといけない」と主張しています。僕も全く同感です。

ヨーロッパでは、「子どもと家庭に優しいまち」というキーワードがあつて、ミュンヘンでは、市政のトップに掲げています。それまでは「自然環境のあるまち」、もつと前は「経済が活性化して、ビジネスチャンスがあるまち」でした。今、それだけでは、市民にそっぽを向かれて、市民は別なまちに引越してしまふ時代です。また、

ドイツのシュトゥツガルト市では、すべての課に子どもと家庭に優しい事業担当の職員(兼務)がいます。

「子どもと家庭に優しいまち」のネットワークも、EU諸国の二十都市ぐらいに広がっています。そういうふうになると、子どもをめぐる環境や、子どもを育む環境をテーマにした高知のまちづくりは、まさに時代の最先端をいっていることになりそうです。行政より市民の方がずっと進んでいますから、今後、この市民の「思い」をどのように生かすか、制度やしくみをどのように変えるかが、行政の大きな課題になってくると思います。

さらに、高知のまちづくりで特徴的だと思ふのは、学生からの提案が多いことです。もちろん、まだ未熟できちんとした活動になつていないものもありますが、「社会のために、高知のために何かやりたい」という思いが伝わってきます。今後、学生の企画は別の判断基準が必要かもしれません。

「子どものことを考える大人がいて、子どもと大人をうまくつなげる若者たちがいて、その人たちの思いをきちんと受け止めるようなしくみ」が高知市の中にあるとしたら、高知は一人にとっても優しいまちだと、僕は思います。



運営委員の紹介

今回は「子どもを育む環境づくり」に取り組んでいる活動団体の発表が多かったと思います。近年、子どもの環境は次第に悪化してきていますが、子どものSOSになかなか気付かない大人が多いようです。そういった意味では、高知は「子どもに優しいまちづくり」の先進地かもしれません。



運営委員長
卯月 盛夫
(早稲田大学教授)



副運営委員長
増田 和剛
(高知中・高等学校教諭)

まちづくりに対する思いを、近頃あまり見かけなくなった粉末を溶かして作るプリンに例えてみると、どこか似ています。既製の容器ではなく、さまざまな容器に流し込んだ、形状の違うプリンであっても味は変わりません。この不思議さは、さまざまな活動に対する情熱の形のようにも思えます。



運営委員
産田 節雄
(元高知市都市整備部長)

今回は、みなさん熱心に自身の濃いもので、時代が大きく変わる中、特に問題になっている「人口減少と少子・高齢化」に関連した題材が多くありました。今、大きくクローズアップされている「新しい公共」のあり方を探る上での取り組みとして期待したいと思います。



運営委員
川崎 敬子
(グラフィックデザイナー)

それぞれの団体がコツコツと地道な活動を積み重ねています。継続していくことには大変な労力がかかっています。相手は川であったり、子どもであったりと違いますが、こうして永く温かく接してくれる人や団体がいることで高知が守られていることを強く感じました。



運営委員
四宮 成晴
(四宮計画事務所)

本ファンドの効果による地域の笑顔心地よく感じた発表会でした。この助成金を「意志あるお金」に変えて、地域に元気をもたらしている団体の方々に痛切に受けとめたと感謝、あらためて皆さんに感謝の念を強く抱きます。これからも、もつと多々の笑顔を見たいと心から願うこの頃です。



運営委員
新藤 こずえ
(高知女子大学助教)

改めて子どもを軸にした、まちづくりの重要性を感じる事ができました。ファンドを活用した事業のおかげで良い経験ができた子どもたちを中心に、今後もたくさん子どもたちを巻き込んでいっていただけたらと思います。そして、その子どもたちを媒介として地域がつながっていけるような活動を期待します。



運営委員
堀 洋子
((社)高知県建築士会)

ハードコースの助成事業では、蜚橋を起点とする本宮川に揚水ポンプが設置され、治水対策のための水門閉鎖時の水無し川が、常時水のある川になり、小魚が戻り、まちなかで見なくなった川ガキが復活しました。この事業を自然学習の場として活かされ、未来の子どもたちへの良いプレゼントとなれば幸いです。



運営委員
宮地 貴嗣
(ラ・ヴィータ 宮地電機株)

それぞれのグループが、高知市を少しでもよくしようと活動していることが伝わってきました。今回の発表会では、グループ同士の情報交換や互いのイベントで支援しあう提案も見受けられました。本ファンドがグループ間の相乗効果発揮にも活かされており、良い発表会であったと思います。



運営委員
森本 智香
(えほんの店「ココロ・サン」)

さまざまな市民活動の形があり、試行錯誤を繰り返し、答えのない問いに挑戦しつづけています。大きな取り組みも、一人ひとりの活動の集約であつて、目の前の問題を解決することから始まります。ファンドの審査や発表会で、小さなことから社会が変わっていくことを実感いたします。



運営委員
山崎 三郎
(高知県自然観察指導員)

金額にかかわらず、NPOとして献身的に取り組んでいる活動の姿が目につくたび、チームの皆さんに熱いエールを送りながら聞かせてもらいました。21世紀は環境の時代、自然との共存、自然の恵みを忘れた世界に未来はありません。高知ならではの、そんな活動に期待します。

公益信託「高知市まちづくりファンド」とは

公益信託「高知市まちづくりファンド」は、「市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例」に基づき、まちづくり活動団体への助成を目的に、高知市が四国銀行に3,000万円を出捐(しゅつえん)して創設しました。助成先は公開審査会で決定し、透明性の確保とともに、市民同士の交流や、まちづくりの学びの場となることを目的としています。多くの人にまちづくりに興味をもってもらい、まちづくりに参加するきっかけとなるような運営をめざしています。

「まちづくりはじめの一歩」コース

まちづくりへの参加の第一歩を踏み出そうとしている市民団体、あるいは活動を始めているが、まだ定着していない市民団体の活動を支援します。

助成金額 上限5万円

審査方法 書類審査で助成先を決定します。助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます。

「まちづくり一歩前へ」コース

市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援しています。

助成金額 活動事業費の $\frac{1}{3}$ 以内で、上限30万円

審査方法 公開審査会において、活動の内容について発表をしていただき、公開審査で助成先を決定します。

お問い合わせ先: 高知市市民活動サポートセンター TEL 088-820-1540

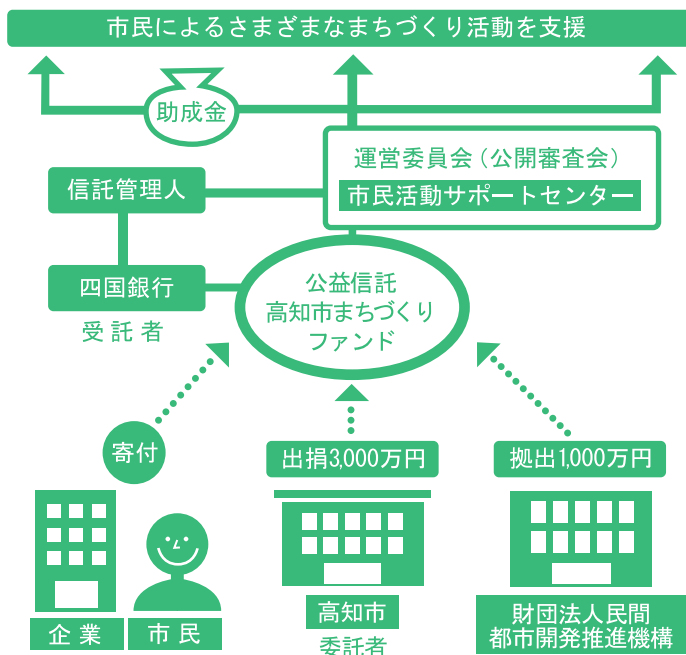
「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース

高知を住みよいまち、豊かな地域社会にしていこうために行うまちづくり整備事業を支援します。

助成金額 上限300万円(助成率100%)

審査方法 第1次公開審査会において、整備の内容について発表をしていただきます。審査通過団体には、計画を具体化するための費用として10万円を限度に助成。第2次審査書類提出、現地調査後、第2次公開審査会において発表をしていただき、1件程度、助成先を決定します。

お問い合わせ先: 株式会社四国銀行 お客さまサポート部 信託担当 TEL 088-871-2226



四国銀行コメント

株式会社四国銀行
お客さまサポート部 信託担当

四国銀行では、「高知市民の自主的なまちづくり活動を支援していく」という信託設定の趣旨に沿って助成事業を行います。受託者としてファンドの管理・運営を行うことにより、まちづくり活動の一端を担い、私たちみんなの大切な高知市をより住みやすいまち、豊かな地域社会にしていこうためのお手伝いができるよう努めていきます。

私たちもお手伝いします。

高知市市民活動サポートセンターコメント

当サポートセンターでは、まちづくりファンドの申請に関する相談や、公開審査会等の運営のお手伝いをしています。皆さまのまちづくりに対する想いを実現できるよう、支援していきたいと考えています。まちづくりファンドの申請に関すること、また、まちづくり活動や市民活動に関すること等、いつでもお気軽にご相談ください。

まちづくりファンドは皆様がまちづくり活動を支援する仕組みです。

まちづくりファンドの創設にあたり、高知市から出捐(しゅつえん)された3,000万円は、毎年取り崩しながら助成していくこととなります。少しでも永くまちづくりファンドが市民のまちづくり活動に活かされるように、多くの皆さまのご寄付をお願い致します。

寄付に関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。

株式会社 四国銀行
お客さまサポート部 信託担当

〒780-8605 高知市南はりまや町1丁目1-1

電話: 088-871-2226(直通)

高知市市民活動サポートセンター

市民に利用していただき、市民活動の輪を広げようと、1999年4月に高知市が設置した施設です。運営を「特定非営利活動法人NPO高知市民会議」が担っており、ボランティアや市民活動に関する様々な相談や情報の提供、活動に必要な機器の利用や会議室の貸し出しにも応じています。仲間を広げたり、活動のお知らせをする掲示板や団体が利用できるメールボックスもあります。活動の参考になる講座等も開催していますので、お気軽にご活用ください。

今後のまちづくりファンド(予定)

審査会・発表会は、どなたでも参加することができます。まちづくり活動に関心のある方の交流の場として、お気軽にご参加ください。7月の会場は、アスパルこうち4階ホールを予定しております。

「まちづくりはじめの一歩」「まちづくり一歩前へ」コース

2009年度助成事業

最終活動報告書の提出期限 7月 5日(月)
最終発表会 7月24日(土)

2010年度助成事業

応募受付期間 4月20日(火)～6月 7日(月)
事前説明会 5月27日(木)・5月30日(日)
公開審査会 7月25日(日)

「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース

2010年度助成事業

応募受付期間 4月20日(火)～6月 7日(月)
事前説明会 5月27日(木)・5月30日(日)
第1次公開審査会 7月25日(日)

発行

高知市市民活動サポートセンター

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階

TEL: 088-820-1540 FAX: 088-820-1665

E-mail: npokochi@siminkaigi.com 【URL】 http://www.kochi-saposen.net/